

# 白子の湧水地保全の署名活動について

2005年1月

白子川を挟んで隣の和光市白子には、湧水地が点々とあり、ほとんどが民有地です。そのひとつ旧川越街道に面した湧水地を保全してほしいという陳情を和光市議会12月定例会に出すことになり(会報44号)、いたばし水と緑の会も賛同団体として署名に協力しました。隣町三園一丁目町会長である鈴木会長も先頭に立って署名集めに尽力されました。

人は皆、身近な自然が大切と言います。それなのに身近な自然は次々となくなり、「何とかならなかったのか」と無力感に襲われます。

その都会の自然保全に、和光市民が当事者として行動を起こしたのが今回の陳情でした。集まった署名数は3006名に達しました(和光市民は約6割)。しかし、直前になって地権者の一人が陳情に強く反対されたため、陳情は取り下げられました。

発起人のひとり加藤研二さんは、「和光市内外の多くの市民が署名し、また多くの市民団体が賛同したことは白子の湧水に対する関心の高さを裏付けるもので、陳情は取り下げたけれど議会や行政関係者に強烈に問題提起できた」と言います。湧水保全は市民参加による和光市環境基本計画や実行計画にもうたわれていますが、言葉だけの湧水保全でなく、具体的な施策として実を結ばなければ意味がありません。

水と緑の会が、白子の湧水を見に行ったのは2000年4月。ひとつの湧水地がつぶされ、高層マンションを建設している最中でした。今回の署名の対象になった旧川越街道沿いの湧水地は、湧水は残っていますが、私たちが見た洗い場跡の流れはなくなり、駐車場になっています。また2000年に見学した本田テクニカルサービス前の湧水は、今は建物が建って半分以上見えません。おばあさんが畑をしているなつかしい谷間風景もどうなるか全くわかりません。状況は切迫していますが、手だてはまだ何も用意されていません。

白子の湧水は和光市だけのものではなく、私たちの宝なのです。和光市民・市民団体は、署名活動で得られた人のつながりを大切に、広い地域の市民と連携して、湧水保全の次のステップに取りくんでほしいと願っています。(坂本 郁子)



ホンダ前の湧水のある駐車場は住宅に変わり、今は湧水の一部しか見えない。(写真は以前の様子)